

---

# True Magic

走馬灯

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

True Magic

### 【Nコード】

N9410X

### 【作者名】

走馬灯

### 【あらすじ】

「こういう話があるのを知っているか？」 「悪いその話前にも聞いたわ」 「聞いたなその話、お前それ何回目だよ」 「俺が金髪美少女とどうやって懇ろになったかっていう話んだけど前も話したっけ」 「いや、までその話聞いてないわ」 「おい、それは聞いてないな、どういう話だよ」 「あれは三年前の夏だったかな」 「ああ、その話か」 「聞いたわ」 「聞いたなその話、何回目だよ」 「.....」

話を変えようか。え、いやそもそも話自体が始まっていないって？  
それは悪かった。

でも、しかし、いやおつとすまないこんなにも口ごもるなんて俺、  
いや僕らしくもない。

いや実際口ごもっているわけじゃないがね。

どうして出だしからこんな口調なのかって？いやいやたまにはこんなのも悪くないだろ？話が進まないって？

すまない僕が悪かったそろそろ主題に入ろうか。まあ特にこれとい  
つて特徴のない僕の。いや俺の話さね。

「君は魔法を知っているかい」突然かけられたその質問に僕、いや  
俺だったか、は答えた。

「もちろんだ、というかなんだ今更魔法について禅問答する気はな  
いぞ、というかそのいつも突然わけわからん質問を投げかけるのは  
やめる、俺が質問に答えるのがめんどくさいわけじゃない質問を投  
げかけられること自体がめんどくさい。というかお前がめんどくさ  
い」

「おいおい、なんだいそれは君あんまりにもひどいよ、ひどすぎる  
と言っても過言じゃないよ、私の羽毛のように繊細な心は深く傷つ  
いたよ、慰謝料を求めろ」

「はっ」よよよつと泣き真似をする義妹に俺は鼻で笑ってやった。

「義兄よ、私は君が私に対する態度を改善する気がないのであれば、  
今夜の夕食をカレーライスにする覚悟がある」

どうしてカレーライスなのか。という疑問はもつともだろう。

カレーライスは万人受けするメニューの一つとして名高い。

が、何事にも例外というものは存在するものだ。

その中に俺が含まれている。

俺はカレーライスが大嫌いである。何が嫌いなのかって存在そのも

のが嫌いだ。

理由？そんなものはない。嫌いだから嫌いなのだ。そもそもドラマやらアニメやらラノベやらでヒロインや主人公どもがのたまう「好きに理由なんていらぬよ」というセリフがあるだろう。

だつたら別に嫌いにも理由なんていらぬってことになるだろ。屁理屈だつて？

上等だよ俺はカレーライスが大嫌いだよ！でも勘違いしないで欲しい味は嫌いじゃない。

はあすまんすまんすっかり話が逸れてしまったな。どこまで話をしていたんだつけ？

そうか俺がクリームシチューも嫌いだつていう話だつたか。

「ちげーよ、私とコミュニケーションを取っていたところだよ、可愛い義妹であるところのこの私、相馬楓と朝のさわやかな挨拶の途中だつたんだよ君」

さりげなく義妹という所と自分の名前をアピールする辺り我が義妹ながら流石といったところか。

「悪い女だ」

「おいっ思つてることが声に出てるよ。せめてもつとオブラートに包もうよっ」

キヤラがまだ明確に確定していない現在こいつは果たして自分のキヤラが激しくプレていることに気づいているのかいないのか。

「それにしても惜しい女だ、優れた容姿滑らかな黒髪ロング胸もそこそこ、これでオツムが弱くなければ義妹から性奴隷にランク上げしてもよかつたのにな」

「おい、だから思ったことそのまま口に出すなつていうか何！？義妹からランク上がると性奴隷になんの！？というかセクハラだよっセクハラ。実の義妹に対して言うことじゃないよつていうか私オツム弱くないしむしろ強いしありえないし」

ゼーゼーと息を切らしつつも怒鳴り散らす義妹を尻目に俺はモーニングコーヒーを啜りながら一息つく。

やはり朝はこの泥水に限るな。

「おい」

未だにゼーハ 言いながら胸をでかくするために飲んでいられる牛乳をがぶ飲みする義妹に対し俺は現実を突き付けた。

「遅刻だ」 時計が指す時間は9時ジャスト、完全な遅刻だった。

(後書き)

趣味まるだしで書かれた作品である。

題名と内容はまるで一致しない。

続くのか不明。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9410x/>

---

True Magic

2011年10月26日10時11分発行